



自閉症の子ども 「丁寧」に接して」

函館で講演会

北海道自閉症協会道南分会は24日、サン・リフレ函館（函館市大森町）で自閉症の子どもとのコミュニケーションについて学ぶ参加者

「コミュニケーションに関する講演会を開いた。保護者や支援者ら約100人が参加し、子どもの特徴や適切な意思疎通について学んだ。

自閉症の子どもとのコミュニケーション障害や言語訓練が専門の東北文化学園大医療福祉学部・藤原加奈江教授が講師となり、症状を抱える子供の困難さを説明。抽象的な言葉に対する理解が苦手で、人の表情に注意が向きにくいことなど

を紹介した。

藤原教授は、「『ちよつと待って』では何をすべきか伝わらない。『おはしを置いて手をひぎに』など具体的に話して」「子どもは失敗ではなく成功体験から学んでいくので、小さい成功体験を積み重ねてあげて」などとアドバイス。「自閉症と言っても一人一人特徴は違う。その子どもを丁寧に見ていく必要がある」と強調した。（小坂真希）